

テ分ケ植、ホエヲ出サセ、夏土用ニ刈リ、又秋ノ末ニ刈リ、兩度眞麻ヲ取、此麻ヲ以布ヲ織ニ、分テツヨシ、土地ニ嫌ヒナクハビコルモノナリ、越後信濃上野、此國々ノ土民、能作リ得テ國々へ出ス也、
〔農業全書三草〕麻ま苧ま

麻苧をうゆる事、先苗地を寒耕し、いかほどもよくこなし、塊少もなく委しくこしらへ、濃糞を多くうちさらし置、二月中旬、麥畦のごとく畦作りし、横にせば、筋をかき、種子を薄く蒔、土をいかにも少おほひ、又其上に糠を少おほひ置なり、生出ては、先草ながら生立そだをき、根よく出来て後、中を削りても痛むまじき時、かるき鍬にてさら／＼と削り、草を殺しやがて糞を置べし、馬やごゑ其外何にても多くをくべし、糞すくなければふとりかぬる物なり、種子を蒔て明る年、苗ばらひをして、又こゑを多く入れ芸り中うちしをき、三年めより刈取物なり、尤冬雪霜に痛まざる様に、馬屋糞など一尺も厚くおほひ、春になりてはかきのけ芸り、又糞を入をきて、五月初め一鎌かり取、六月半又一鎌、八月一鎌以上三度かる物なり、中の度を上とすべし、はぎとる事、中よりをしおれば、皮は二筋になりて、木は本末へげてのく物なり、さて其皮を日の當らざる所に置て、水に漬るか、池川なくば、井の水を汲かけてぬらし、竹刀を以て内の方よりこけば、却て上の皮よくのく物なり、いかにも懇にこきて、其後上中をゑり分、さらし干あひして、百日宛を一把とするなり、是は芳野にて作りこしらへ立る大概なり、○下

〔令義解三賦三役〕凡略○中 其調副物、○註 正丁一人○中 菓十二兩、

〔延喜式一四時祭〕鎮花祭二座

大神社一座、○中 粟六兩、 狹井社一座、○中 粟八兩、

〔延喜式五齋宮〕祓料○中 菓一斤

〔延喜式四西二市〕紵カラムシ廩シ○中 右五十一廩東市、 紵カラムシ廩シ○中 右卅三廩西市、